

オープン就労・クローズ就労の メリット デメリット

1. オープン就労のメリット:

- 障害に対する理解と配慮が得られやすい
 - 必要な支援や合理的配慮を受けやすい
- 障害者雇用率の対象となり、企業にとってもメリットがある
 - 障害者向けの制度や福利厚生を利用できる
 - 障害を隠す必要がなく、精神的負担が軽減される
 - 同じ障害を持つ仲間と交流できる可能性がある
 - 就職後の定着率が高い。
- 会社で職場環境や通院のための休みなどの配慮を受けられる。
 - 助成金を利用した応募ができる。
 - 障がい者専用求人に応募できる。
 - 障がい等を隠すストレスから解放される。
- 障害者就業・生活支援センターなど関係機関の支援が受けられる。

2. オープン就労のデメリット:

- 障害を理由とした差別や偏見を受ける可能性がある
 - 能力や実績よりも障害に注目されがちである
 - キャリアアップの機会が限定される可能性がある
- 障害者枠での採用により、給与が低くなる可能性がある
 - プライバシーが保たれにくい
 - 障害者としてのレッテルを貼られやすい
- 障がい（病気）について理解が得られない同僚等がいる場合がある
 - 応募できる求人が少なくなる。
 - 給料が低く設定されることがある。

3. クローズ就労のメリット:

- 障害を意識せずに働ける
 - 能力や実績で評価される可能性が高い
 - キャリアアップの機会が得られやすい
- 一般枠での採用により、給与面で不利にならない
 - プライバシーが保たれる
- 職場での人間関係を障害に左右されずに構築できる
- 会社で障がい（病気）について知られないですむ。
 - 応募できる求人が多くなる。
 - 給料に差がつきにくい。

4. クローズ就労のデメリット:

- 必要な配慮や支援を受けにくい
- 障害を隠すことによる精神的ストレスがある
 - 体調管理が難しくなる可能性がある
- 障害が明らかになった場合、信頼関係が崩れる可能性がある
 - 障害者向けの制度や福利厚生を利用できない
 - 突発的な症状や体調不良の説明が難しい
- 就職後の定着率が低い。会社で配慮を受けられない。
 - 会社で配慮を受けられない。
- 能力が低い、努力が足りないなど低く評価されてしまうことがある。
 - 障がい（病気）について会社に相談できない
- 障がいや病気、通院・服薬等を隠したり説明するストレスがかかる。